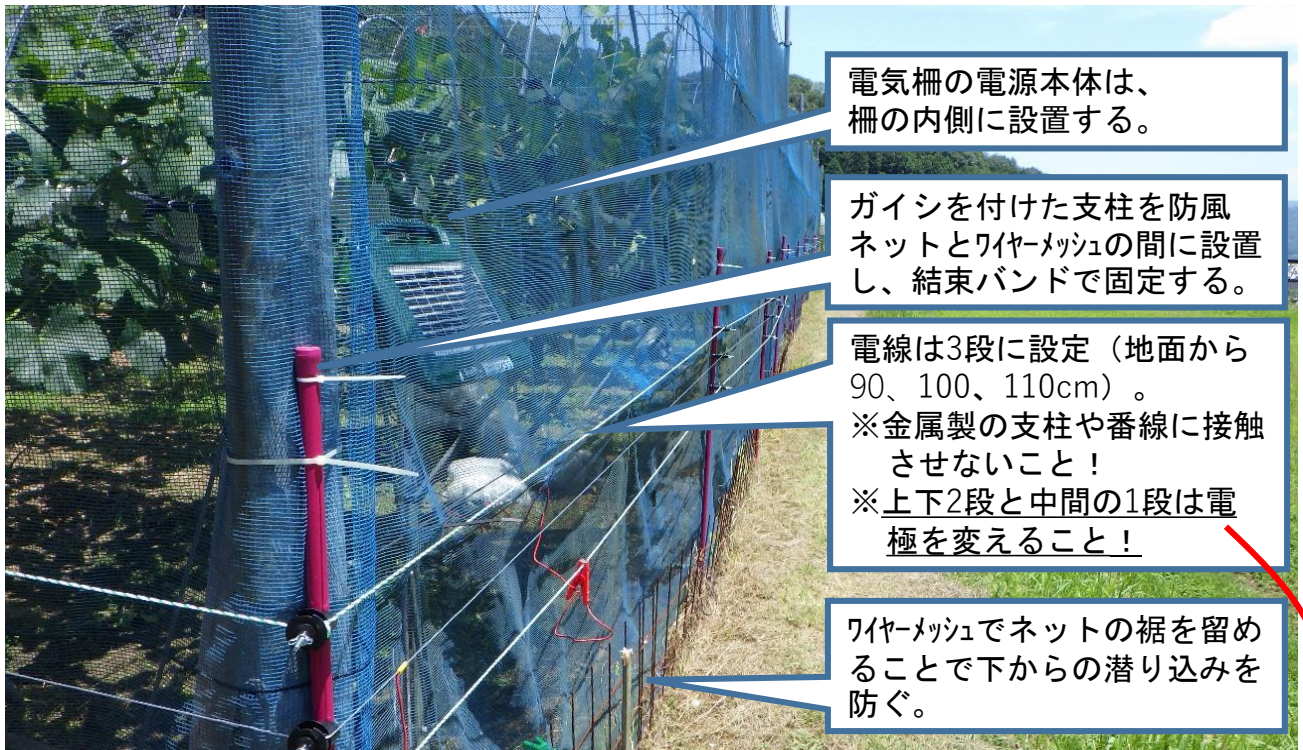


ぶどう園における防風ネットと電気柵の 組み合わせによる簡易複合柵



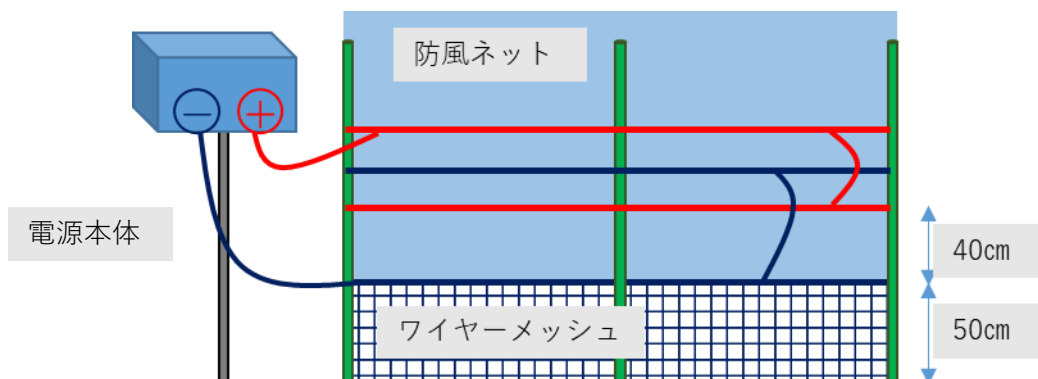
- 落合地域のぶどう園において、既存の防風ネットを活用した簡易複合柵（電気柵とワイヤーメッシュを組み合わせた柵）の実証試験を行いました。
- 試験の結果、サルやテン、アナグマによる被害が軽減できたので、紹介します。

設置方法



複合柵の原理

- 動物が図中の赤い線（⊕）と青い部分（⊖）を同時に掴むことで感電する仕組み。
- ワイヤーメッシュは、地中に埋まっているので、地面に足を置いて、赤い線（⊕）を掴んでも通電する。



使用した資材（園地4a、外周85m）と費用の目安

区分	資材名	単位
電気柵	電源本体（型番）	1基
	支柱（パイル150cm）	35本
	碍子（Eガイシ）	105個
	電線（ポリワイヤー）	約260m
	ゲートハンドル	3個
	ポリワイヤー用簡易緊張具	3個
ワイヤーメッシュ	Φ5mm、100mm角、幅2m×高さ50cm	約43枚
その他	結束バンド	100本入
		（合計）82,030円

設置上の注意点

⚠防護柵の設置は被害初期に！

- ・被害が頻発し、動物がぶどうに執着してしまうと、防衛しにくくなります。

⚠電圧はこまめにチェック！

- ・電圧は、常に5千ボルト以上になるように管理してください。

⚠裾部分や継ぎ目からの潜り込みに注意！

- ・少しでも隙があれば、動物はそこから潜り込んでしまいます。

⚠園地周辺の木や障害物は撤去すること！

- ・電気柵より上に飛びつかれると、せっかくの複合柵も効果を発揮できません。
- ・撤去できない場合、登れないように工夫するか、園地を縮小する等の対策が必要です。

⚠電源本体は園地の内側に設置！

- ・外側に設置すると、本体を足掛かりに侵入される恐れがあります。

⚠その他

- ・柵を設置する際は、農作業の邪魔にならないように、計画的に設置しましょう。



ネットの裾部にできた隙間
イタチに侵入されたため、補強した。



園地周辺をうろつくサル
柵沿いの立木は、登れないように、
後日、複合柵で囲った。

複合柵の突破事例紹介



■落合地域の柿園に設置した複合柵（電気柵とワイヤーメッシュを組み合わせた柵）で、サルとキツネが侵入する様子が観察されたので、紹介します。

観察された侵入の様子



キツネもまったく同じ場所から侵入する様子が観察されました。

侵入箇所の特定と対策の提案

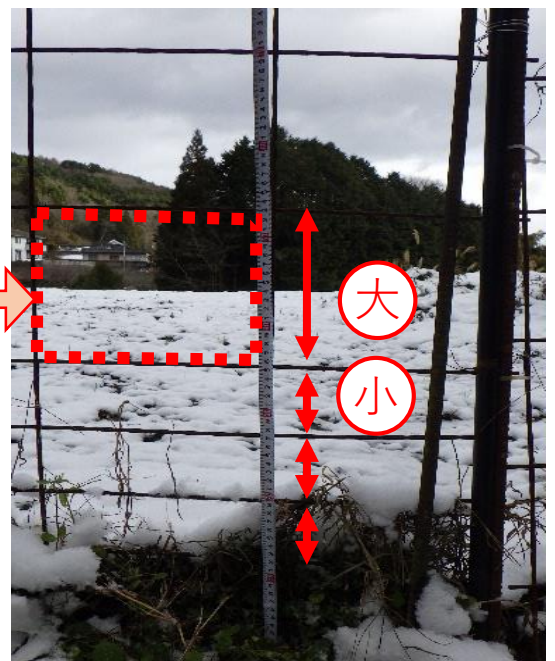
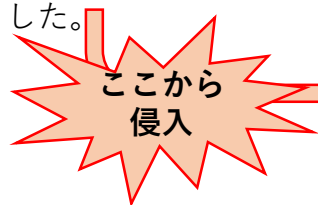
侵入箇所の特定

画像を分析した結果、サルやキツネは、ワイヤーメッシュの目合いが大きくなった箇所（幅22cm×高さ18cm）から侵入したことが確認されました。



対 策

- ・ワイヤーメッシュの外側に、アニマルネットなどの目合いの細かい網を貼る。
- ・新しく柵を設置する園地では、最初から幅10cm×高さ10cmの目合いのワイヤーメッシュを使用することをお勧めします。



防護柵を正しく設置して農作物への被害を減らしましょう！